

令和元年度特許調査実践研修 実施報告

令和2年3月

令和元年度、独立行政法人工業所有権情報・研修館では大阪工業大学と連携し、知的財産実務の経験が浅い企業等の知的財産担当者や特許事務所等のリーガルアシスタントなど、知的財産権制度の知識を有する者を対象とし、特許出願前から特許取得、権利活用に至るまでに必要となる特許審査基準に基づいた特許性判断や、効率的な特許調査を的確に行うことができる人材の育成を目的に、特許調査実践研修を1回実施いたしました。

1. 研修の概要		
(1)日程	8月21日～23日(3日間)	
(2)開催地	大阪府大阪市	
(3)申込人数	15名	
(4)参加人数	15名(聴講生2名含む)	
(5)講師	4名	
2. アンケート結果		
(1)研修全体として	人数	割合
・非常に有意義であった	10名	71%
・有意義であった	4名	29%
・あまり有意義ではなかった	0名	0%
・有意義ではなかった	0名	0%
・無回答	0名	—
(2)主な意見・要望	<p>《特許審査基準判例研究》</p> <ul style="list-style-type: none">・検索の方法で、今まで使ったことが無い機能を知れたので活用したい。・進歩性の判断基準を理解することが出来た。・これまで疑問に思っていた点について聞くことができてよかった。 <p>《特許文献分類体系の概要／特許文献検索実務》</p> <ul style="list-style-type: none">・インデキシング、分冊コード、CPCといったキーワードは初耳で役立った。・IPCの分類について、何故このような項目に分けられているのか説明していただき、頭の中がすっきりした。 <p>《特許調査演習》</p> <ul style="list-style-type: none">・審査官目線の調査方法を知ることができたので、とてもよかった。・検索の方法が一番学びたいことだった。いままで使ったことがない機能を知れたので活用したい。 <p>《グループディスカッション・調査結果討論・模範解答解説》</p> <ul style="list-style-type: none">・ディスカッションの中のアドバイスが非常にわかりやすくなった。・FIでの絞り込み、構成要件の分解が大変役にたった。・判断する基準を理解することができた。	
(3)アンケート回収率	14名	93%